

平成 22 年度は、日露戦争に参加した軍人の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

《 ひろせ たけお 廣瀬 武夫 1868～1904年 》
—旅順港閉塞作戦で活躍した軍神—



第二回閉塞二関スル報告（登録番号：海軍省-日露-M37-25）

軍艦朝日の水雷長であった廣瀬武夫少佐（後の中佐）は、日露戦争が始まると旅順港閉塞作戦に指揮官として参加しました。しかし、明治 37 年 3 月 27 日の福井丸（閉塞船）による第 2 回作戦の際、指揮官付の杉野上等兵曹（後の兵曹長）が行方不明となり、捜索しましたが発見できず、やむなく短艇で退去している時に戦死しました。「第二回閉塞二関スル報告」の中の「軍艦朝日第五回戦闘詳報附録福井丸決死隊員死傷及救治ノ状況」には「・・・頭部ヲ撃タレ海中ニ墜落シ救ハントシタルモ及ハス」と同少佐の戦死の状況が詳細に記述されています。なお、人物の写真は廣瀬中佐（右）と杉野兵曹長（左）です。（「旅順閉塞戦記念帖」登録番号：海軍-⑧参考-写真-134）



故廣瀬海軍中佐銅像建設ノ為土地使用願

（登録番号：海軍省-銅建書類-M43-1-2）

日露戦争が終わると廣瀬中佐の銅像を建設しようという声が高まりました。この史料は「明治四十三年 廣瀬海軍中佐銅像建設書類 巻一」（全 3 巻）の中の「故廣瀬海軍中佐銅像建設ノ為土地使用願」です。明治 41 年 3 月に海軍の担当者が東京市長に対し、廣瀬中佐の銅像を建設するために、東京市神田区万世橋付近の土地の使用許可を願い出ています。廣瀬中佐の銅像は杉野兵曹長の銅像とともに、明治 43 年 3 月、万世橋付近に建設されました。このほか同史料には銅像台座の外観図（左上）なども記載されています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画室
専用線：8-67-6522、6588 外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>